

坂本さんの広い敷地内には征雄さんの次男家族、甥の家族、そして父親で今秋の10月で101歳になる秋俊さんの家が隣り合わせにあり、4世代が暮らしています。

101歳とは思えないほどかくしゃくとした秋俊さんは、大正13年生まれです。公務員として長年、熊本県庁に勤務し、坂本家の大黒柱として家族を支えてきました。

「若いころ狩猟免許を取得し、猟にはよく出かけましたね。10年前まで、町にある熊本県射撃場で銃を握ってましたよ」と話す秋俊さんは、スマートフォンやタブレットPCも使いこなすというから驚きです。

「スマホを使い始めたのは、せがれより私が早かったですよ。使い方が分からずモタモタしているせがれを見て笑いましたね」と、どや顔の視線の先で征雄さんが苦笑い。

身だしなみにも余念がない秋俊さんは、近くの理髪店にひんばんに出

か？』と尋ねようとして、バイクの「スーパークラブ」にたとえてあると分かり、言葉を飲み込みました」と笑いながら、思い出のエピソードを教えてくださいました。

### 101歳の翁 おきな スマホを使いこなす

益城弁が混ざった流ちょうな日本語を話すのは、富嶋ナタリアさんです。23歳のとき、ロシアのハバロフスク州から嫁いできたナタリアさんは「もう人生の半分以上をここで過ごし、古里よりこちらでの暮らしが長くなりました」と話します。

「若いころ狩猟免許を取得し、猟にはよく出かけましたね。10年前まで、町にある熊本県射撃場で銃を握ってましたよ」と話す秋俊さんは、スマートフォンやタブレットPCも使いこなすというから驚きです。

### 「マダ、ネトラス」。

右/タブレットもスマホも使いこなすという今年101歳になる秋俊さん  
左/秋俊さんが彫った「だるま」の彫刻は見事な出来栄です

かけるそうです。ある日、杖も持たずに理髪店に向かう姿を心配した征雄さん夫婦に「杖を使うと忘れて置いてくるけん、持たん方がよか」と一蹴。そんな秋俊さんの格言は「人生は成り行きまかせ」。深いなあ。



仲睦まじい雄治さんと妻のナタリアさん

来日前、日本語の勉強を積んだそうですが「益城弁は勉強してこなかったから「こんなはずじゃなかった」と困りました」と笑って振り返ります。

当時の面白いエピソードがありまして。しゅうとめのヨシ子さんに近所の女性から朝早くに電話があり、電話口に出たナタリアさんが「マダ、ネムッテイマス（まだ眠っています）」と繰り返して返答するも相手には伝わらず…。そこで、ヨシ子さんが使う言葉を真似て「マダ、ネトラス（まだ寝とらす）」と返したら、すんなり通じたそうです。

そんな彼女を見守ってきた夫の雄治さんは「文化の違いや覚えることが山ほどあって大変だったと思います。けれど彼女の持ち前の明るさと



上/雄治さんが長年コレクションしている蝶の標本。以前は外国まで出かけて採集していたとのこと  
左/今年の正月にこしらえたチーズやハムを詰めたナタリアさん流のおせち。和食も作ったそうです

ポジティブさで、楽しんできたようにも思えます」と、愛妻を優しいまなざしで見つめます。

携帯に保存した正月のおせちの写真を見せながらナタリアさんは「日本の文化や暮らしが好きです。そして古里の文化も愛しています。2つの国の良さをこれからも大切にしていきたい」と話してくれました。

### 季節を彩る庭

緑がいつせいに芽吹いた、風情豊かな庭のある家を見つけました。手入れが行き届いた坂本征雄さんの庭



県道熊本高森線の4車線道路が広がる福富地区

庭には盆栽もたくさん育てられており、これからの季節は水やりで忙しいそうです。立ち話に気づいて顔を出した妻のケイ子さんは「夫が単身赴任した頃は私が水やり担当。数鉢枯れさせてしまったこともありましたが」とくすくすと笑います。

長年、本田技研工業に勤務した征雄さん。今も大事にしている宝物は、創業者の本田宗一郎氏が征雄さんのために筆を取ったカブの水彩画です。



征雄さんが大切に育てているポタンが、鮮やかに咲き誇っていました



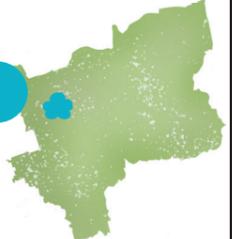
本田技研工業・創業者の本田宗一郎氏が征雄さんに贈った水彩画



坂本さん夫婦と楽しいおしゃべりに花が咲きました



上/ハゼ、モミジなどなど数種類の盆栽が彩る庭  
左/まだ若いモミジの盆栽。風がそよぐと涼やかに揺れます

ちょっとそこまで/  
**わがまち散歩**  
Wagamachi Sankou  
vol.47  
ふくどみ 福富編  


県道熊本高森線の4車線化が進み、福富地区の道路沿いの景色もすっかり様変わりしました。

けれど、県道を隔てて南北に広がる家々の穏やかな営みの光景は同じです。昔ながらの路地を歩きながら、温かい出会いがありました。